

炎症性腸疾患関連脊椎関節炎 (IBD-SpA) に関する前向きコホート研究

岸 本 暢 将¹⁾ 福 井 翔²⁾ 松 浦 稔³⁾
 三 井 達 也³⁾ 齋 藤 大 祐³⁾ 林 田 真 理³⁾
 小 野 慶 介¹⁾ 小 林 知 志¹⁾ 川 嶋 聡 子¹⁾
 池 谷 紀 子¹⁾ 川 上 貴 久¹⁾ 三 好 潤³⁾
 駒 形 嘉 紀¹⁾ 久 本 理 一³⁾

1) 杏林大学医学部腎臓・リウマチ膠原病内科学教室

2) 杏林大学医学部総合医療学教室

3) 杏林大学医学部消化器内科学教室

研究の目的 (図 1)

- (1) IBD-SpA の早期発見および診療科間の協力体制の構築
- (2) IBD 患者における SpA の有病率および特徴, 治療, 生活への影響の解明
- (3) 海外との比較による本邦の IBD-SpA の特徴の解明
- (4) IBD 患者における SpA のスクリーニングツールの開発
- (5) IBD 患者における SpA 発症のリスク因子の同定

1 年間の研究成果

消化器内科に通院している発症3年以内の IBD の患者で本研究に対する同意を得られた全例を対象とし, (1)

IBD の症例票を登録し, 患者を研究目的の関節評価の外来に紹介 (2) 関節評価外来で関節炎や付着部炎などの, SpA の所見を詳細に評価し, 患者登録票を登録 (3) IBS-SpA の診断, 疑いとなった患者は通常の外来で精査, フォローアップを行う。(3) さらに並行して患者は生活習慣や QOL に関連したアンケートに回答 (4) 患者登録票と患者アンケートに加え, 血液検査や画像検査の結果をデータ化, 登録してレジストリを構築した。

現在, 同意を得られた全 94 例の発症早期 IBD 患者をレジストリに登録を行い, エクセルシートにすべてのベースラインデータの入力を完了した。早期 IBD 患者で, 適格基準を満たした 85 名中, 10 名の IBD-SpA (体軸性 SpA 3

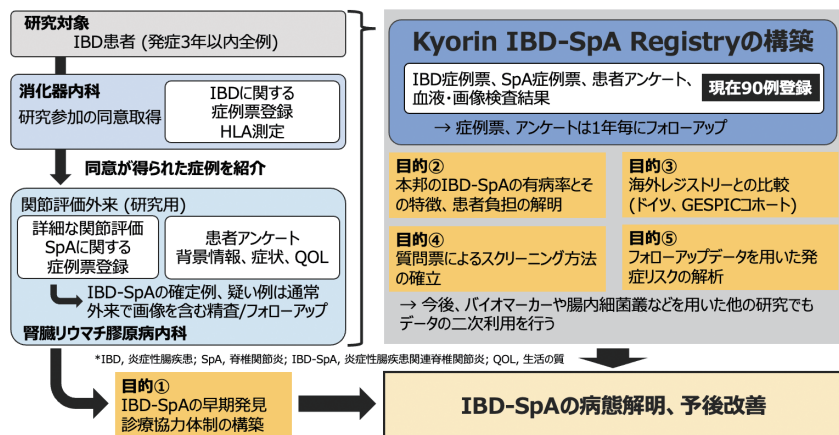


図 1 研究概要

ROC curve PASE score for IBD-SpA

ROC, receiver operating characteristic; PASE, Psoriatic Arthritis Screening and Evaluation; IBD-SpA, Psoriatic Arthritis Screening and Evaluation

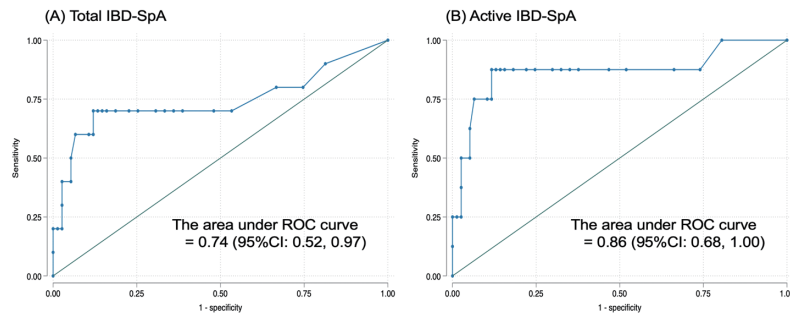


図2 PASE score の IBD-SpA に対する診断特性

名、末梢性SpA 7名)の診断を行うことができた。消化器内科とリウマチ膠原病内科の協力構築により、目的(1)「IBD-SpAの早期発見および診療科間の協力体制の構築」を達成することができた。現在目的(2)(4)の解析を進めている。特に研究目的(4)の早期スクリーニングツールの開発において、乾癬性関節炎のスクリーニングに用いられるPASE(Psoriatic Arthritis Screening and Evaluation)を早期IBD患者に用いて、IBD-SpAの同定が可能かを検証した。The area under the receiver

operating characteristic curveはIBD-SpA全体に対して、0.74(95%信頼区間:0.52, 0.97)、活動性のIBD-SpAに対しては0.86(95%信頼区間:0.68, 1.00)であり、PASEはIBD患者におけるSpA患者の同定にも有用であると考えられた(図2)。

2025年6月に行われた欧州リウマチ学会(2025年1月締め切り)での発表を行い、現在論文を作成・投稿して査読中である。